

贵州省地方志编纂委员会办公室辑

贵州历代方志集成

【道光】安平县志

【民国】平坝县志

【民国】关岭县志访册

【民国】紫云县社会调查

【民国】羊场分县访册

中国文史出版社



贵州省地方志编纂委员会办公室 辑

贵州历代方志集成

【道光】安平县志

【民国】平坝县志

【民国】关岭县志访册

【民国】紫云县社会调查

【民国】羊场分县访册



中国文史出版社

总目 录

贵州省

第一册

【弘治】 贵州图经新志	 (一)
【嘉靖】 贵州通志	 (一九三)
【宣统】 贵州地理志	 (五一)

第二册

【万历】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第三册

【乾隆】 黔南识略	 (一)
【乾隆】 贵州通志	 (二〇五)

第四册

【乾隆】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第五册

【民国】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第六册

【民国】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第七册

【民国】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第八册

【民国】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第九册

【民国】 贵州通志	 (一)
-----------	-----------

第十册

【民国】 贵州通志	 (一)
【民国】 今日之贵州	 (三九九)

第十一册

【万历】 黔记	 (一)
---------	-----------

第十二册

【万历】 黔记	 (一)
【康熙】 黔书	 (四三五)
【嘉庆】 续黔书	 (五一九)
【嘉庆】 黔记	 (五八九)
【嘉庆】 黔史	 (六三三)

【同治】苗疆闻见录 (六五七)

贵阳府（今属贵阳市）

第十三册

【道光】贵阳府志 (一)

第十四册

【道光】贵阳府志 (一)

第十五册

【道光】贵阳府志 (一)

【民国】开阳县志稿 (二四七)

【民国】修文县志稿 (四九五)

第十六册

【民国】息烽县志 (一)

【民国】清镇县志稿 (四七五)

遵义府（今属遵义市）

第十七册

【道光】遵义府志 (一)

第十八册

【道光】遵义府志 (一)

第十九册

【民国】续遵义府志 (一)

第二十册

【民国】续遵义府志 (一)

第二十一册

【民国】续遵义府志 (一)

【民国】遵义新志 (二九二)

第二十二册

【嘉庆】正安州志 (一)

【咸丰】正安新志 (一一一)

【光绪】续修正安州志 (二五三)

第二十三册

【嘉庆】仁怀县草志 (一)

【道光】仁怀直隶厅志 (四五)

【光绪】增修仁怀厅志 (四四三)

第二十四册

【光绪】增修仁怀厅志 (一)

【光绪】桐梓县志 (一三三)

第二十五册

【民国】桐梓县志 (一)

第二十六册

【民国】桐梓县概况 (一)

【乾隆】绥阳县志 (五九)

【民国】绥阳县志 (九七)

【光绪】余庆县志 (三二五)

【民国】余庆县志 (三七九)

【康熙】湄潭县志 (四八一)

第二十七册

【光绪】湄潭县志 (一)

【民国】务川县备志 (二二七)

【光绪】都濡备乘 (二六九)

【康熙】龙泉县志草 (三一)

水城厅 (今属六盘水市)

【光绪】水城厅采访册 (三二九)

【民国】郎岱县访稿 (四七一)

【民国】水城县志草稿 (五五三)

安顺府 (今属安顺市)

第二十八册

【咸丰】安顺府志 (一)

第二十九册

【咸丰】安顺府志 (一)

【民国】续修安顺府志 (二七五)

第三十册

【民国】续修安顺府志 (一)

【道光】永宁州志 (二七七)

【咸丰】永宁州志补遗 (四六九)

第三十一册

【光绪】镇宁州志 (一)

【民国】镇宁县志 (八七)

【道光】安平县志 (四四一)

第三十二册

【道光】安平县志 (一)

【民国】平坝县志 (一六一)

【民国】关岭县志访册 (四五七)

【民国】紫云县社会调查 (五一七)

【民国】羊场分县访册 (五七三)

大定府 (今属毕节市)

第三十三册

【道光】大定府志 (一)

第三十四册

【道光】大定府志		(一)
【民国】大定县志		(二一九)

第三十五册

【民国】大定县志		(一)
【乾隆】黔西州志		(二四五)
【嘉庆】黔西州志		(三三三)
【光绪】黔西州续志		(五〇七)

第三十六册

【民国】黔西州志		(一)
【乾隆】平远州志		(九五)
【道光】平远州志		(二九一)
【民国】威宁县志		(三三一)

第三十七册

【乾隆】毕节县志		(一)
【同治】毕节县志稿		(一七二)
【光绪】毕节县志		(四六九)

铜仁府（今属铜仁市）

第三十八册

【嘉靖】思南府志		(一)
【道光】思南府续志		(八七)

第三十九册

【道光】铜仁府志		(一)
【民国】思南县志稿		(二六五)
【乾隆】石阡府志		(三七九)

第四十册

【乾隆】玉屏县志		(一)
【民国】玉屏县概况		(二三七)
【民国】石阡县志		(二六五)

第四十一册

【民国】玉屏县志资料		(一)
【康熙】平溪卫志书		(二九)
【道光】松桃厅志		(六一)
【民国】沿河县志		(三一七)
【民国】印江县志		(四五七)
【民国】德江县志		(四七九)
【民国】江口县志略		(五三九)

兴仁府（今属黔西南州）

第四十二册

【咸丰】兴义府志		(一)
----------	-------	-----

第四十三册

【咸丰】兴义府志		(一)
----------	-------	-----

【光绪】兴义府志续编	·····	(三七九)
【民国】兴义县志	·····	(四〇五)

第四十四册

【民国】兴义县志	·····	(一)
【民国】兴仁县志	·····	(三五三)

第四十五册

【民国】兴仁县志	·····	(一)
【民国】兴仁县补志	·····	(一三九)
【民国】兴仁县采访录	·····	(三五七)
【嘉靖】普安州志	·····	(三九七)

第四十六册

【乾隆】普安州志	·····	(一)
【光绪】普安直隶厅志	·····	(一五七)
【民国】晴隆县志	·····	(四五九)
【民国】册亨县乡土志略	·····	(五一七)
【乾隆】南笼府志	·····	(五五五)

第四十七册

【民国】南笼续志	·····	(一)
【民国】普安县志	·····	(一二五)
【雍正】安南县志	·····	(四一五)
【光绪】安南县乡土志	·····	(五四一)

【民国】安南县志	·····	(五六五)
----------	-------	-------

镇远、黎平府（今属黔东南州）

第四十八册

【民国】思县志稿	·····	(一)
【光绪】黎平府志	·····	(七九)

第四十九册

【光绪】黎平府志	·····	(一)
【康熙】清浪卫志略	·····	(四八九)

第五十册

【嘉庆】黄平州志	·····	(一)
【民国】黄平县志	·····	(四三七)

第五十一册

【民国】黄平县志	·····	(一)
----------	-------	-----

第五十二册

【乾隆】镇远府志	·····	(一)
【嘉庆】古州杂记	·····	(二六三)
【光绪】古州厅志	·····	(二七三)

第五十三册

【康熙】思州府志	·····	(一)
----------	-------	-----

【康熙】天柱县志	(一四九)
【光绪】续修天柱县志	(二三七)
【民国】天柱县五区团防志	(四二九)
【民国】施秉县志	(四五三)
【民国】榕江县乡土教材	(五二九)

第五十四册

【民国】剑河县志	(一)
【民国】麻江县志	(七一)
【民国】岑巩县志	(三二三)

第五十五册

【民国】台拱县文献纪要	(一)
【乾隆】清江志	(四一)
【乾隆】开泰县志	(二〇三)
【民国】八寨县志稿	(三二一)
【民国】炉山物产志稿	(四八三)

都匀府（今属黔南州）

第五十六册

【民国】都匀府亲辖道里册	(一)
【民国】都匀县志稿	(三七)
【康熙】定番州志	(二八七)
【民国】三合县志略	(三七七)

第五十七册

【乾隆】独山州志	(一)
【民国】独山县志	(二八五)
【民国】独山县志文征志	(六一三)

第五十八册

【民国】定番县乡土教材调查报告	(一)
【咸丰】荔波县志稿	(一九二)
【光绪】荔波县志	(二一九)
【民国】荔波县志资料稿	(三六一)

第五十九册

【光绪】平越直隶州志	(一)
【民国】贵定县志稿	(六〇二)

第六十册

【民国】瓮安县志	(一)
【嘉庆】桑梓述闻	(三四九)
【民国】惠水县乡土教材调查报告	(四九二)
【道光】广顺州志	(五一七)

道光 安平县志

清·刘祖宪 修 何思贵 等纂
道光七年刻本 十卷
一九六四年贵州省图书馆据上海
图书馆藏本复制油印本

清道光初年（1821），安平县（今属平坝区）知县刘祖宪纂修；黔西州优贡何思贵、安平县训导罗国良、原任浙江龙游县知县黄恩培、原任都匀训导黄荣分修。记述时间从《尚书·禹贡》载梁州起迄清道光六年（1826）止，明朝以来史实记载较详备，明朝以前较略。书前有序二篇，插图二十三幅，其中四幅为安平县疆域图，一幅为城区图，十幅为县城内官署和主要建筑图，八幅为县城及县城周围的八景图。全书设天文志、地理志、营建志、食货志、风土志、文治志、武备志、秩官志、人物志、艺文志等构成，三十多万字。道光七年（1827）十月付梓，石刻本，为平坝县第一部县志。原版藏县政府，咸同兵燹时毁。十卷专志包括天文地理、气候建置、疆域邮传、城池户口、田赋积贮、民风职官等四十八个门类，记载翔实。书中还记述了《安平县志》成书前，前人欲修县志，从清朝初年以来，形成的卢志稿、黄志稿和徐志稿的编修和内容概况。

目 录

卷五	风土志	民俗		(五)
	土俗		(五)	
卷六	学校志	学宫		(二一)
	书院		(三九)	
	城乡义学		(三九)	
卷七	武备志	营制		(五四)
	兵防		(五五)	
	兵费		(五五)	
	师旅		(五六)	
卷八	秩官志	官制		(六〇)
	职官		(六二)	
	名宦正纪		(六六)	
	名宦通纪		(六八)	
卷九	人物志	选举		(七二)
	乡贤		(八一)	
	乡宦		(八五)	
	忠烈		(八六)	
	孝行		(九一)	

卷十	艺文志	诏		(二〇二)
	谕		(二〇四)	
	疏		(二〇七)	
	传		(二一五)	
	记		(二一六)	
	叙		(二三四)	
	引		(二三七)	
	说		(二三八)	
	诗		(一三九)	
	烈女		(九二)	
	隐逸		(九八)	
	流寓		(九八)	
	仙释		(九九)	
	方技		(一〇〇)	

安平縣志卷之五

風土志

民風 土俗 冠婚喪祭附 土語附 苗蠻 苗俗 冠婚喪祭附 苗語附

古者天子採十五國之風以徵美惡。蔡邕漢太史陳詩以稽政治之得失。唐風勤儉。魏風樸急。秦俗剛強。齊俗誇大。雖曰風土。蓋亦政治使然也。邑在洪武初年。苗夷遠竄。設衛列屯。其後屯軍之親。有相依倚而來者。有固商賈而徙者。故一切歲時伏臘冠婚喪祭之禮。多與中華相近。惟是西堡十二支。魁結殊隔。鳥言鴛舌。喜怒不常。性情強悍。前明有事之時。叛

安平縣志

卷五

民風

者接跡。

聖天子揆文奮武。而又輕其賦稅。薄其刑罰。慎選有司。無曠乃職。百餘年間。漸摩涵育。始嗚嗚焉與漢民共敦禮讓。道一風同。豈非在上者之有以變易之乎。至若苗人土語。雖難通曉。茲雖不能盡譯。而聽斷者得其大概。亦未必非壤土細流之一助也。志風俗。

民風

邑民不知有紛華之悅。故寡欲易足。城鄉衣冠。率皆用布。男

鮮為僧。女不為尼。士夫敦詩書而重名節。工賁勤職事而賤

游食。婦女尚樸素。不盛妝飾。非至親不出見。非急事不盡行。

新苗民種類雜糅。習尚異宜。舊志勤儉重儒。務在力行。漸洗

蠻風。順循漢禮。志一

土俗

正月元旦。晨起焚香秉燭。整肅衣冠。設茶酒菓品等物。叩拜天

地

皇王及祖先畢。以次叩禮。尊長親友彼此慶賀。名曰拜年。互相款

安平縣志

卷五

土俗

二

留數日乃止。本城初六日。南門迎。大王菩薩。靈官

菩薩。初八日。東門迎。准神。雷神。立春之日。粧扮故事花

爆。擡着牛芒神。隨地方官迎春東郊。初九日。中十車夏

等寨迎。楊泗將軍。十三日。羊場河等寨迎。關聖帝君。

十八日。車頭等寨迎。關聖帝君。楊泗將軍。葛公。大王

下小王。下等寨迎。大王菩薩。皆新衣。鑼鼓花爆。旗幟。男婦

老幼。沿途塞巷。觀者如堵。牆餘村。則鳴鑼擊鼓。歌唱為樂。盡

元宵乃止。

元宵遍張鼓樂燈火爆竹。扮演故事。有龍燈獅子花燈地戲之樂。庶民紳士各燃燈於其祖墳。薦其時食。

二月雨水植花木。或接果種。

三月清明日。拜掃先塋。標錢掛紙。新墳以社前為期。舊墳則清明前後。有修砌者。必於清明前三日。具牲醴展墓。以是日土神不用事。故也。上巳日。祓除不祥。或以柳枝插門。或簪髻上。又是日為土地盛會。凡祀土地者。必刑牲灑酒。以養之。穀雨采茶。以烈火炮製三次。復用微火焙乾之。味頗香美。

安平縣志

卷五

土俗

三

四月初八日浴佛日。各戶皆造烏米飯。祭先祖。餽送親戚。或書佛生四月八日四字。以避蚊蟲。

五月五日端午節。各插蒲艾於門。以角黍互相餽送。祀先祖。泛蒲觴。繫長命索。飲雄黃酒。以驅邪也。十三日為關聖帝君磨刀盛會。前後數日。有大水。曰磨刀水。二十八日。以鑼鼓花炮旗幟。迎城隍。周行街巷。以逐疫也。

六月六日祀土地神。曬衣服。士曬書。農夫以雞鴨酒飯。祀田祖。插紙錢於田中。以祈豐美。

七月七日牛女渡河。女人以瓜果祀織女。名曰乞巧。又以天河隱見。卜年歲之豐歉。自初七以至十三。或自十一以至十五。名曰中元盛會。每日焚香烹茶。設供家先考妣。虔備冥錢。

已祔於三十五夜。設饌門外。望空焚之。至有號泣者。一名盂蘭盛會。放鐵口。施路食。以濟孤魂。田子由音孽。出道經。謂無主之魂也。

八月十五日中秋節。各戶以月餅西瓜石榴等物相饋遺。月上即用各物供之。名拜月。其以笙簫鼓樂。玩月至通宵者。名看月華。

安平縣志

卷五

土俗

四

九月九日重陽節。采菊花茱萸。插頭上。飲茱萸酒。以辟邪。其有登高者。謂之避災。農家搗糲粬以飼牛。又以是日造酒。味佳。終年不淡。

十月朔日。士夫家具酒醴雞黍。印刷紙衣冠靴帽等物。火化於祖先墳前。謂之送寒衣。

十一月冬至無慶賀禮。

十二月八日名臘八。宰猪作脯肉。親族互相酬酢。二十四日以條帚掃屋中塵垢。夜祀竈神。以竈神是日上天。言其家終歲

善惡之事也。至除夕，竈神回再祀之。除日，以新書門神對聯及五色錢五福掛於門首，具酒饌當門設席叩拜。天地及十方三界之神，謂之答謝天地。祀先祖謂之答謝平安。至夕，少長聚飲，謂之年飯。火爆花燭，喧闐達旦。名曰守歲。

冠婚喪祭附

婚姻多係舊親，亦有新親者。男子五六以至十歲，父母即為定親。始議婚，男家請與女家親厚者赴女家求女，此為內媒。女家許之，即以女庚授媒，令男家合婚。曰討庚。婚既合矣。

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

五

男家復央人求於女家。此為外媒，亦曰行媒。猶古禮之問名也。男家擇吉，隨用首飾聘儀布帛，并紅柬書書男庚曰乾造某年月日時。授媒送至女家，猶古禮之納吉也。謂合婚既吉，男家納其吉也。女家受之，猶古禮之納采也。以布帛為采，義隨於紅柬，驚於女家也。書上書女庚曰坤造某年月日時。以授媒，媒授之男家，以為證據。猶古禮之納徵也。兩姓隨設席，迭為主賓。媒妁姻婭，酬酢往來，名曰會親。俟男女長成，再行婚禮。婚禮將婚前一年，或前數月，男家以所得喜期及酒醴布帛絲線之類，遣

媒致意，曰報期。女家預製床帳衣服器具，貧者減他物，而床

帳必具。名曰嫁資。一曰陪奩。將婚前三日，男家以所製新

婦衣服簪環首飾及猪羊酒醴茶食菓品，請媒人送至女家。

名曰過禮。女家以新郎衣冠及床帳衣服器具為酬，曰嫁粧。

是日宴於男家者曰看嫁粧。在女家者曰看過禮。貧戶不拘。

是夕親族長幼咸集。男父設席於庭，教其子以成人之禮，與

之冠。曰冠。父退，親長命之上坐，使親族同輩子弟陪飲。曰陪

新郎。女母於是日吉時。其時亦男家擇之。擇少婦中重慶具慶

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

六

而有子者，為女姑。名曰上頭。上頭訖，以簪簪之，故亦名簪。簪之時，女不忍離膝下，號泣不已。至夕，女父母設席於庭，扶女至中堂，請族孀或高年之嫗，導道者教以三從四德之禮。命之上坐，使親族中同輩或少輩未嫁之女子陪之。曰陪新姑。娘此即醮子醮女之禮也。婚之日，男父備彩轎彩旗羊酒等物，請至親男婦二人，鼓樂導壻至女門。名曰親迎。女家設奠酒祀神。壻捧鴛拜獻，名曰奠雁。禮畢，羅拜女家親長。女家設席飲壻。壻就館，再燒香燭，扶女至中堂，女號泣辭神，就

轎請至戚男婦或二人或四人送女。婿辭行。偕新婦歸。女到男門。道士祝神。掃除煞氣。名曰退車馬。新婦下轎。送親婦扶新婦跨馬鞍入室。禮生二人贊禮。曰拜堂。禮畢。入房。設香燭。新夫婦拜於床前。曰拜床畢。夫婦交拜合卺而飲。曰交盃。次日親族畢集。三日新婦拜見舅姑。以次拜見親長。茶食菓品皆出自女家。示婦敬也。是日潔饌。姻婭飲酒盡歡。越三日。女家饋女飲食。以婿為賓。亦共牢之義也。一月之後。女父母具束遣人至婿家。婿偕其婦行。反馬禮。名曰回門。其禮之厚薄。

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

七

視其家之貧富。

按黔中風俗。大槩相同。惟皆禮一端。郡與郡異。州縣與州縣異。然其中有宜於今而不悖乎古者。亦有悖於禮而不自知其非者。即如隣郡有親迎。此古禮也。有冠拜。男父設席命子。女母設席命女。此亦古禮也。而安平以為自古無之。合卺之時。惟用福壽雙全。子孫眾多者二人入房。與之合卺。而安平則用道士入房。向新婦頭上。以秤竿揭取蓋頭。與之合卺。以為自古行之。喜轎過街。凡值巷口神廟水

井。女家必以紅氈掩巷口神廟水井。以為避煞。庶士之家。以補服蟒袍。鳳冠霞帔。與男女冠帶。敝俗違禮。此其所當禁革者也。至如討庚擇吉諸節。有合於古。問名納采。納吉。納徵諸禮。此其不妨從俗者也。應興應革之間。惟求合禮。士大夫禮教為宗。爾庶民率循罔後。許見平陽七所。皆彬彬乎禮教之鄉也。豈非憲之所厚望哉。指腹割襟。久干例禁。今既改描香之陋習。概用鸞書。乃猶有悔親敗盟。書中只開載乾造坤造某年月日時者。何與。

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

八

古人定親之始。男家有謝書。女家有允書。皆四六小啟。男女互存其一。此憑之以文字也。男家具束請女親會飲。女家請男家亦如之。曰會親。凡女家有吉凶事。婿必親至此。憑之以人眾也。今庶民之家。不設席。不作啟。久之貧富差池。親情冷淡。媒氏托空。鸞書無據。則安得不興詞構訟。可見古人崇尚禮節。消弭禍患。而反古者之不可以為訓也。喪禮。親終。澡浴後。著衣冠。扶至堂中。舉哀奠祭。殯歛訖。入棺。同飲。有大飲小飲之不同。朋友親戚。燃燈數十對。送至喪家。以為

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

九

照夜一名送燈。喪家置酒。相與擊鼓歌孝歌。以為伴亡。一曰坐夜。居城中者。隨至城隍廟。向各神焚香化錢。祈神冥護。曰上油。數日之後。訃諸親。將葬前三日。本族諸親咸集。曰開堂。一曰開吊。行點主禮。延仕宦為大賓。大賓至。孝子奉主拜見。大賓刺孝子指血點神主二字。名曰點主。次行三獻禮。禮子節禮稍為延。節數處。延僧道就于靈前誦經。曰開路。僧道以靈幡書死時於幡上。何竈神叩拜。曰辭竈。拜中雷曰辭神。次日出柩。以牲酒祀五丁力士。曰祭輿。孝眷親族送柩至葬所。曰還山。三

安平縣志

卷五

冠婚喪祭附

十

按邑中喪事。卜宅兆點主安靈祀后土大祥小祥禭祭最為近古。惟是泥於風水之術。往往有停柩三五月。或周年年載者。未免悖禮。禮庶民始死即葬。士踰月。大夫三月。為人子者。不忍委其親於水泉螻蟻之鄉。風水之說。固不可少。然不預為料理。則踰月而葬。或不免凶地之害。踰月而不葬。又不能無水火盜賊之慮。若至於水火為災。則臨時擇地者。又不若隨宜安葬之為得也。或曰。祔祖可乎。曰。千里來龍。止結一棺之地。吾見富家大族。每以祔葬而通族俱敗者。祖宗一穴之生氣。不勝其洩之。又洩耳。若祔葬不拘世代行次。是昭穆尊卑。先已失序。又安怪其子孫之亂倫也。所關匪細。故因喪葬而類及之。至喪用僧道。陋習相沿。當亦有心世道者之急欲變革也。祭禮有公祀。如各寺觀所祀諸佛菩薩之聖誕。及龍鳳金鰲天台高峰洛伽諸山之瞻禮朝拜。邑民崇奉之。大王靈官五顯。雜神雷神楊泗將軍之類。有專祀。如各家紳士之祠祭是也。有私祀。如各戶之元旦清明端午中元中